

第8回「農」と里山シンポジウム 実績報告書

- 1 日時 平成29年9月24日(日) 13:00～16:30
- 2 会場 ウェスタ川越 多目的ホールBCD(川越市新宿町1-17-17)
- 3 実施体制
 - (1) 主催 三富地域農業振興協議会
〔構成：埼玉県、川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町、JAいるま野、
農業者、消費者、企業等23名・機関〕
 - (2) 後援
関東農政局、関東地方環境事務所、埼玉県、川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、
三芳町、JAいるま野、かわごえ環境ネット、NPO法人武蔵野の未来を創る会、
(公財)森林文化協会、(公財)トトロのふるさと基金、生活クラブ生協埼玉
 - (3) 協賛
西武鉄道(株)、(有)埼玉フーズ、(株)日東テクノブレン、日本工営(株)、山崎製パン(株)
- 4 参加者
人間地域を中心に196名が参加



大澤会長あいさつ



川合川越市長あいさつ

5 実施概要

- (1) 関係実施団体の取組の展示
多目的ホールB部分において、三富地域に関連して環境保全活動等を行っている団体の取組や、所沢市の写真家松岡氏が撮影した三富地域の写真パネル展示が行われた。



展示コーナーの様子



展示コーナーの様子

(2) 基調講演及びパネル討論

ア 基調講演「三富地域を後世に残すためには」

講師：広田 純一氏（岩手大学 農学部 教授）

概要：この地域は、「持続的農業のモデルとして重要」という、国内の農業遺産認定地域にはない特徴を持った地域である。継承の課題を解決していくには、本質的価値の理解と普及啓発が必要である。そのためには、体験を通じた理解が必要であり、価値に気づく研究者や芸術家による情報発信も有効である。地域自身の課題解決力を地域力というが、三富は世界農業遺産にもなれる地域、腹をくくって地域力を高めてもらいたい。



広田先生の講演



会場の様子

イ パネル討論 「未来への遺産・三富平地林を語る」

コーディネーター 広田 純一氏

パネリスト 大木洋史 氏(落ち葉堆肥農法実践農家)

横山三枝子 氏(かわごえ環境ネット、副理事長)

寺本壮太郎 氏(飛驒産業株式会社、コントラクト事業部)

概要：農業者からは、高齢化から里山が荒れていくなかで、ボランティアの協力を得ながら伝統農法を続ける現状と相続時に農地のような減免措置が必要という意見が出た。横山氏からは、いい環境を次の世代に渡したい。農家の事を大切にしたい消費者でありたいとの発言もあった。寺本氏は、平地林の維持には木を伐って若返らせる必要があり、地元の人が地元の木を使った家具

を使うことで、平地林の維持に貢献できる仕組みを作りたいと語った。広田氏からは、住民が地域と関わることが課題解決につながる、里山の管理は住民が関わりやすいので、その一步を踏み出して欲しいと締めくくった。



パネル討論でのコーディネーターとパネリスト

6 総括

参加者の声から

- ・三富地域がなぜ世界農業遺産に選ばれたかの確認が出来た。課題の解決の方向性の重要性も考えるきっかけになった。
- ・三富についてかなり具体的に系統立てて理解できた
- ・三富の課題解決に向けて、広い視野でコミュニティ作りに努力する必要がある。特に若年層に関心を持ってもらう様 三富ファン作りを行なって行く必要があると感じました。
- ・三富地域の「課題解決の方向性」についてがとても参考になった。
- ・三富地域の価値とはどういうものか。文化的景観等の概念を交えてご説明されていて興味深かった。
- ・農業の大変さやこの地域の環境保全のこと知った。三富地域の材を使った家具があることを知った。

参加者の声からは、基調講演で、三富地域を歴史から理解し、農業遺産として認定された経緯について理解した様子うかがえる。課題を解決するには「腹をくくる」ことが必要との言葉に多くの方が共感していた。現実に活動するパネリストの言葉を聞いて、平地林の保全という課題の難しさを感じたようである。里山の木を家具にするという取り組みには、興味を持ったようであった。



終了後、山崎製パン(株)様から御提供いただいた三芳のサツマイモを使ったパンを配布した